

南は新高校の情報少ない

公立高校 芦別高2間口維持を 配置計画

【岩見沢】道教委は

ンで行った。

4月22、25の両日、第1回公立高校配置計画地域別検討協議会」をオンラインで開いた。2025年度から3力年の公立高配置計画の策定に向け、空知南学区(9市町)と空知北学区(15市町)別に、教育関係者などから意見を聞いた。

空知南学区は22日、同北学区は25日にそれぞれ開催。会合で道教委の担当者は、27年度の中卒者の推移について南学区で26年度よりも28人減の998人、北学区で同52人減の767人になることを説明。28、31年度の4年間には、南学区で17人減るため4、5学級、北学区でも81人減り、2、3学級相当の中卒者数減の見通しを示した。

このほか、奈井江商業高を26年度に募集停止することや、岩見沢東高と岩見沢西高を統合して25年度に開校する新設校は単位制を導入したうえで、普通科4学級と普通科新学科2学級を設置すること

も説明した。出席者の質疑で南学区では、岩見沢市内の中学校長が「新設校のカリキュラムや推薦枠などの情報が伝わってこないため、生徒への進路指導に苦慮している」と苦言を呈したほか、岩見沢市PTA協議会の役員は新設校に対し、子どもたちの可能性を広げる選択肢のある前向きな準備を求めた。

北学区の会議では、荻原貢芦別市長が「市では地元高校の存続のため、生徒や家庭に様々な支援制度を講じている。本年度の入学者は少なかったが、今後学校と連携して魅力ある高校にしたい」と、芦別高の2間口維持を強く求めた。また、上砂川中の高橋成和PTA会長は「上砂川においては、通学に伴う公共交通の利便性が高校選択の選択肢になるケースもある」と指摘。道教委の担当者は「関係機関と連携して通学の足を確保できるよう努力したい」と話した。道教委は6月上旬に計画案をまとめ、9月上旬に計画を策定する予定だ。【関野則嗣、新田一寛】